

「読む力」について

子どもの伸ばしてあげたい力の一つに「読む力」があります。

一言で「読む力」といっても、文章を読む力、場を読む力、相手の気持ちを読む力などがあります。

そんな「読む力」に大切なのが「読解力」をつける事です。

この「読解力」は、国語だけに限らず、全ての教科を学習する時に非常に重要なスキルとされています。

読解力とは、場面の状況などから、人の考えや感情について理解する力の事です。

人の気持ちを汲み取るためには語彙力も必要です。

しかし、いくらたくさんの言葉を知っていても本に書かれた状況から登場人物の感情の動きまで汲み取れなければ「読解力」があるとはいえません。

小学校あたりから読解力の差＝学力の差が現れてくると言われています。

では、読解力をつける為に幼少期にどうすればよいのでしょうか。

読解力をつけるために良いと言われている「読書」ですが、実はこれだけでは不十分。

特に3歳までにしておきたいことは、「感情」を教える事。

喜怒哀楽の感情がどういうものか、生まれてすぐには理解できませんが、日常生活の中でケンカして「怒る」「悲しい」、遊んで「楽しい」ほめられて「嬉しい」などの感情を習得していきます。

幼児期に様々な感情を教えてあげる事で、子ども自身が状況や場面から相手の感情を読み取る力や相手に共感する力が身につけていきます。

幼少期は、心のベースを作るとても大切な時期です。ご家庭でも子どもと向き合う時間を多くもち、いろいろな感情が感じられる体験を重ねて下さいね。